

# 意見書を提出します

10月定例会には、1件の意見書案が提出され、質疑討論の後全員賛成で採択されました。意見書は衆・参両院議長や内閣総理大臣等に提出されます。

## 子宮頸がんワクチン等の公費助成を求める意見書

日本では毎年約15,000人の女性が子宮頸がんを発症し、約3,500人が亡くなっていると推計されています。特に20代、30代に増えており、20代の女性では発症率が1番高いがんになっています。女性の健康と命、ひいては未来の子どもの命を守るために予防と、検診による早期発見の両方が大切になってきます。

予防については子宮頸がんの原因のほとんどがヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によることからワクチンが開発され、世界百カ国以上で承認、接種されています。日本でも2009年10月に子宮頸がん予防ワクチン接種が承認され、同年12月から接種が始まりました。

WHOは2009年4月、HPVに関連した疾病は全世界的な公衆衛生の問題だとして、発展途上国を含めた世界全体で同ワクチン接種を推奨しており、日本でも子宮頸がん制圧をめざす専門家会議などが、検診率の向上、ワクチン接種の公費負担を厚生労働省に求めているところです。

同ワクチンは、現在の日本では任意接種で費用は自己負担となっています。半年間に3回接種する必要があり、費用が合わせて約5万円と多額なことから、予防接種をためらう例が少なくありません。同時にワクチン接種で予防できるのは子宮頸がんの約7割とされており、すでに感染しているウイルスを除く効果はないことから、早期発見・治療のためにも子宮頸がん検診が欠かせません。

よって政府におかれては、女性の健康と命を守ること、出生率向上のためにも以下の対策を取られるよう強く要望します。

記

- 1、子宮頸がん予防ワクチンの公費助成を早期に実現すること。
- 2、子宮頸がん検診費用に公費助成を行うこと。

## 議 会 を 傍 聴 し て み ま せ ん か

議会では1人でも多くの皆さんが傍聴され、議会活動に対する理解を深め、市政に参加されることを望んでいます。

**次期定例会は、12月の予定です。**